

# ごあいさつ



取締役頭取 吉永 國光

皆さまには、平素より東和銀行をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

当行に対するご理解を一層深めていただくために、本誌を作成いたしました。2006年度の業績を中心に当行の現況と経営に対する考え方などについて、できるだけ詳しく紹介させていただいておりますので、ご参考にいただければ幸いに存じます。

さて、昨年度のわが国経済は、好調な企業収益を背景にした積極的な設備投資と、海外経済に支えられた輸出に牽引され、緩やかな回復を続けました。こうした企業部門の堅調さが家計や消費に波及するに至らず、「実感なき回復」と言われながらも、景気拡大期間はいざなぎ景気を抜き戦後最長となりました。

さらに、日銀は、経済が底堅さを増し物価のプラス基調が鮮明になったことから、5年4ヵ月ぶりにゼロ金利を解除し、金融市場の正常化に向けた歩みを進めました。

こうした中、当行は、時代の変化に機敏に対応し地域金融機関としての役割を十分果たしていけるよう、リテール業務の強化、徹底した経営の効率化を推進し、営業力・収益力の強化に努めてまいりました。

しかしながら、当行は将来に亘り安定した財務基盤を構築し、地域経済への貢献を十分果たしていくためには、抜本的な不良債権処理を行う必要があるとの認識から、将来発生の可能性があると見込まれる貸倒損失にできうる限りの引当を講じることいたしました。

その結果、2007年3月期の決算では大幅赤字、無配となり、皆さまには多大なご迷惑をおかけしましたことを厳粛に受け止め、経営体制の刷新を含め「お客さま、株主さま、役職員」が三位一体となった経営体制を確立し、今後はさらに営業現場に経営資源を集中し、地域経済の発展に寄与していく地域金融機関としての役割を果たしてまいりたい所存です。

これからも、「地域から頼られる銀行」として、役職員一丸となって、株主の皆さまやお取引先の皆さまのご期待にお応えできるよう邁進してまいりますので、一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2007年7月

東和銀行 取締役頭取

吉永國光